

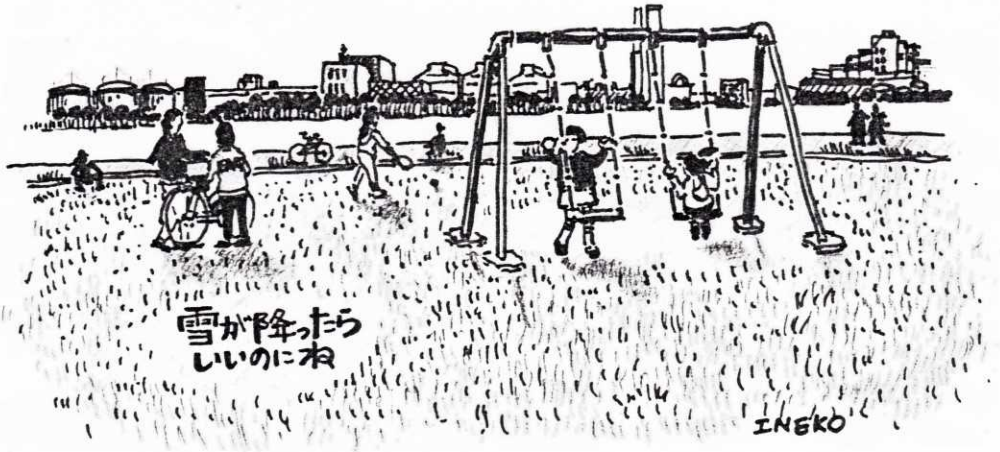
2001年 2月15日発行 (隔月刊)



う 羽 化 か

2001年2月
第 24 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宇 田 川 幸 子



目 次

漢点字変換ソフト「EIBRK」について (8) (木下 和久)	・ ・ ・ ・ ・ i
川上泰一先生に出会って (第六回) (東野 トシエ)	・ ・ ・ ・ ・ 1
教室から 書き初め (伊藤 邦博)	・ ・ ・ ・ ・ 5
連載「点字から識字までの距離」(21) (山内 薫)	・ ・ ・ ・ ・ 8
寄稿 漢字教育と日本点字委員会	・ ・ ・ ・ ・ 11
ご報告とご案内	・ ・ ・ ・ ・ 12
漢点字による漢文訓読文表記の試み (岡田 健嗣)	・ ・ ・ ・ ・ 14
新年会のご報告	・ ・ ・ ・ ・ 19
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(23)	・ ・ ・ ・ ・ 23

川上泰一先生に出会って（第六回）

東大阪市 東野 トシエ

物理の授業

私は川上先生に物理をも習いました。とても楽しい授業でした。

物理を高等部2年生で5時間、3年生で3時間習いました。3年生のときは選択科目だったのではないかと思いません。

2年のとき「5時間やから、1週6日間のうち5日間はこの教室へ来て諸君の顔を見る。担任以上に接触時間が長いんやから、諸君のことはよく分かっている」と川上先生はおっしゃっておられました。ほんとうに物理を教えるだけではなく、健康状態をはじめよく観察して下さっていました。だから私たち生徒が行動する前に察しておられました。ときには、私たちが校則などに対して意見を言うとき黙ってよく聞いて下さっていました。

「盲学校ですから、盲生徒を中心に授業は進めません。このクラスは点字使用者が多いですから特にそう

します」と最初の授業でおっしゃいました。

椅子に座られることはほとんどありませんでした。黒板の前に立っておられました。黒板は余り使われず、必要に応じてたまに使っておられました。ときには教室の中を歩いておられました。なんとなく生徒の私たちは緊張感がありました。その歩き方が嫌だとは思いませんでした。

「教卓の前でじつと椅子に座って授業する人がいるけれど、あれはいかん。授業に熱意が足りない」とおっしゃり、「教壇に立たない空き時間はもつと自分の専門分野を研究せないかん」とおっしゃっておられました。

「この学校で物理を担当しているのはわしひとりや、理療科の方も全部物理は先生が教えている。だからわしは全員知っている」と川上先生が誇らしげにおっしゃり、「じゃあ、先生を知らない生徒はいないのですね」と生徒が言うと、「そうや!! そうなる。わしを知らん生徒は潜りや」と笑いながらおっしゃいました。

「適任者がおられたら代ってもらいたいんやけんどうな、漢点字のことで忙しいな、ほんま時間がないんや、お願いできる先生がおられんのや」とおっしゃっておられました。

「物理やから教室で座って教えなかんことはないんや」とおっしゃり、以前に物理の授業を体育館で、綱を生徒に持たせて、波形か何かの説明をされたことを懐かしそうに話して下さいました。

盲教育のありかたについて、論議していると時間が経つのも忘れ夜更けになり、興奮して大声になったことがあるそうです。喧嘩しておられるようにみえて、驚いて止めにはいられた方がいらつしやるそうです。

「今、あんなに先生と論議できる熱心な先生はこの学校におられない」と残念そうにおっしゃっておられました。

授業が始まる時、「はい立って」といいながら教室に入って来られました。これは私たちが川上先生がおみえになつても分からないから、川上先生の方から声を掛けて下さるといふ御配慮だったのだと思います。

川上先生は、いつも笑いながら話し掛けて下さり、心をほぐして下さいました。緊張タイプの私なども気軽に接触することができました。

弁論大会に出場する人をクラスから選ばないといけないと話していましたら、川上先生が「U君がいいぞ。クラス全員で文章を書いて優勝させてやれ！U君に自信をもたせてやるといいぞ。そうするとU君の

性格が変わります」とおっしゃり、川上先生が御指導なさって、弁論大会に出場させられたときの話しをして下さいました。おとなしいU君も物理の授業は楽しんでに声を出して笑っていました。

結局そのときは、私が漢点字をテーマにして出場させていただきました。確か校内で3位だったので、後日、「としちゃん、弁論大会残念やったね。1位になるところやったのに、漢点字の反対者に・・・」とちらつと耳にしました。1位になれば全国大会にも出場でき、漢点字の普及ができたのにと私は若干悔しい思いをしました。でもそのことは忘れて、寄宿舎の文集『このころのまど』に漢点字のことを書きました。すると川上先生が「慌てなくてもいいぞ、そのうち広まります」とおっしゃいました。

川上先生は、優秀な生徒には国語の教諭になって欲しいなどと希望も大きく持つておられました。「長所を見つけて伸ばしてやるといい。それを見つければ教師の仕事や。長所を伸ばして自信を付けてやるといい、自信が付くとそれがきっかけになってどんどん伸びていきます」とおっしゃっておられました。

「文字と話し言葉とを使い分けなさい。原稿にして提出するのと講演するのとは内容は同じでも違います。書物にするときはむずかしい単語の羅列でもいい

ですが、講義はそれでは相手に伝わりません。だから著者によって朗読を拒否する人がいるのです。一字書くのに何時間も悩んで作者は書いておられるのです」とこんなこともよくおっしゃってられました。

「試験の平均点数が悪いのは、教える方にも責任があります。赤点を付けて喜ぶ教師がいるけれど、あれは勘違いです。自分の教え方を反省せなアカン。大事などころは力をいれて教える、そこから試験問題の半分は作るんや、先生の試験問題は赤点をとらんでもええけんど100点もむずかしいぜ。基礎はクラス全員に理解させる。あとは応用や。それに、言葉の説明をせなアカン。盲教育は黒板に書いて説明してもナンセンスです。教科書は晴眼者と同じやから、漢字交じり文の表意文字で書かれている。ところが点字は表音文字や。『漢方概論』の授業を諸君の先輩と一緒に受けたことあるけんどな、あれは漢字無しでは分かりません。漢点字で勉強したら伸びるぞ」とおっしゃってられました。

「今作成している『漢訳国語辞典』が一段落したら、物理の教科書を漢点字で作るぞ。その教科書を使って物理を習うと物理はもつと分かりやすくなりませ」と川上先生はおっしゃってられました。

川上先生はよく見ておられます

川上先生は晴眼者ですので、遠くからでもよく見ておられました。そしていつも真剣でした。知識が豊富ですから話題も豊富でした。とにかく温かい方なので、いつも川上先生のおそばにいたいそんな感じがしました。

授業中はもちろんですが、雑談のときも廊下を歩いておられるときも私たちのことをよく観察しておられ、愛情を一杯注いで下さいました。漢点字を創案して下さるという偉大な方なのに、ちっとも近付き難い存在ではなく、川上先生の方から気さくに声を掛けて下さり、私たちはそれに質問したり笑ったりしました。

あるとき私が給食を残してそれを持って歩いていると、廊下から川上先生が「東野、それ残すのか? ・ ・ ・ 先生食べる」と言って教室に入ってこられ、「えっ! ! 先生このままで? 」と言っているうちに、私の手から食器とお箸をとられて食べはじめられました。「担任を持たなくなつて給食を食べるのは久しぶりや



けんどな・・」。給食はあんかけうどんだったと思います。うどんをすすする音をたてておいしそうに食べながら、冗談をおっしゃり私たちを笑わせておられました。

卓球などのスポーツ大会に出場する生徒に「闘志を燃やしてがんばりなさい。まあ試合は優勝できた方がええけんどな・・」と激励しておられました。

川上先生の御指導は今というプラス指向だったと思います。失敗すれば罰則を与えるとか、後からくどくど説明したりなどはなさいませんでした。優勝できる可能性が高いと、御褒美を指して生徒ががんばるよう激励されておられたように思います。余り優秀な成績じゃないときは、「それでいいんです。またがんばりなさい」とおっしゃっておられました。

私が川上先生と出会ったときは、もう舎監やクラブの顧問は担当しておられず、職員室にもあまり行かれず、物理の授業以外は、点字印刷室で漢点字の研究に没頭して下さっておられました。

川上先生は、以前に舎監を担当して下さり、寝食とともに過ごされ盲人の日常生活のこと、お風呂ではお湯のかけあいをしたり、潜水して隠れていきなり足を捕まえたりして遊ばれたそうです。また、寮祭のとき優勝したチームには牛肉をやるとおっしゃり、寮祭を

盛り上げておられたそうです。寮祭の後、優勝したチームのお部屋からはすき焼きのいい匂いが漂い、それで、負けたチームの生徒も次に向かって意欲が湧いたそうです。御神輿を寮祭の前夜徹夜で作成して下さいたこともあるそうです。それを見ておられたご父兄の方が、「このような熱心な先生に子供を預けることができて嬉しいです」と涙を流して喜ばれたそうです。

それから、門限を破って出て行くのを見ていて、さしてきて帰りはどうするつもりやと通れなくされたそうです。また、日に何度も避難訓練をされたそうです。

これは先輩からも、「もう今日はこれで避難訓練は無いなんて安心でけんねん、部屋に帰って遊んでいたら、またドラが鳴るねん」という話を聞きました。

そして、川上先生は、盲人野球（グラウンドソフトボール）部の顧問のとき監督からルール作成までして下さいました。私たちのころもそのルールでしておりました。川上先生が監督をして下さっていたとき、ものすごく感のよい生徒がいて、他校から「あの人は見えているのでは？」と疑われたそうですが、その人が転校されて全盲だということを証明したとおっしゃっておられました。川上先生の御指導で感を鍛えられたことでしょう。

また川上先生は、演劇部では、脚本書きから演技の

指導までされたそうです。スピーカーを5、6台使われて音に臨場感を出され、いろいろ工夫されて観客から涙あり笑いありで拍手喝采だったそうです。「音が講堂全体に広がるようにな。そして鳥が鳴きながら飛んでいるようすを出すために講堂のあっちこっちにスピーカーを置いてな、音もちよつとずらして出すんや。あの時代にそんなことをしたんやぜ。物理が専門やからできたんや」と試合やコンクールで優勝されたときのことやハプニングなどをよく話されていました。たぶん昭和30年代のころのことだと思えます。

(つづく)



書き初め その一

二〇〇一年になりました。

私の勤務する学校では毎年新しい年を迎えると子どもたちに書初めをしてもらいます。

私は書写の授業での指導の目標は次のように考えています。「字配り、中心を通すこと、始筆、送筆、終筆、トメ、ハライ、ハネなど基本的事項は指導するが、最後は子どもたち一人一人が自分なりの最高点目指して筆で書けばいい」

今年の私のクラスは自分で決めた文字を墨で書くことにしました。

冬休みに入る前に、三学期が始まったら書初めをするから、冬休み中に二千一年の目標や抱負、どんな自分に成長したいかを考えて三〜四文字の言葉を考えてくることが、おうちの人と相談して決めてもいいという宿題を出しました。

始業式の日、書初めに向けて子どもたちの考えてきた言葉を紙に書いて提出してもらいました。

つよい子 元気な子 美しい子 元気な子

元気一杯 大親友 大きな心 遊ぶ子 一生懸命

ふじ山 明るい子 生き生き 仲良し 勇敢な子

仲良し 友だち より早く 風の子 やさしく

泣かない 頑張る子 思いやり

使い古された、ありふれた言葉に見えますが、ひとりひとりの子どもたちの願いが担任の私には切実に伝わってきました。

Yさんは「泣かない子」 お家で小さな弟と喧嘩す

るとすぐに泣いてしまふ自分を変えたいと思つています。弟には絶対に手を出さないやさしい子です。もう一つ、Yさんの大好きなおじいちゃんを癌を患い、闘病しています。おじいちゃん絶対良くなつてねという願いと同時に万が一の時の喪失感への恐れも込められています。

「頑張る子」に決めたH君、去年両親が離婚しました。その現実を受け入れられず、二年生の三学期は気持ちがちがゆれにゆれ、不安定な生活を強いられました。三年生になり、やっとその事実を受け入れ前向きに生活するようになりました。今ではクラスの皆をいつも笑いの渦に巻き込む一方で、何事にも目標に向かって地道に誠実に一生懸命取り組んでいます。この字は難しいから平仮名で書かないかという私の問いかけにも「俺はさあ、絶対漢字で書きたいんだよね」と言い切りました。敢えて挑戦してもらうことにしました。

「生き生き」と言う言葉を選んだのはKさん、一学期友達との関係で悩み、登校を渋ったのですが、二期になつて自分の考えや気持ちに悩まされた友達にもクラス全員にも伝えられるようになった自分を見つめた言葉です。

「風の子」は二年生までは友達ができず、家に引きこもり気味だったS君の決めた言葉。三年生に進級し

てからたくさんの友達と外で元氣よく遊べるようになります。その楽しさを毎日満喫している喜びを表しています。

「より速く」はオリンピックの標語のようですが、小さな体ながら短距離も長距離もとにかく走るのが大好きなT君が決めた言葉。毎年お母さんの田舎で行われるマラソン大会に出場し、いつも上位の成績を残しています。もつと速く走れるようになりたいと言う希望が込められています。

子どもたちに書初めをしてもらうのに、私は子ども達の決意や抱負、願いを考えながら手本を書いていきました。

さて、書初めの日、手本を渡しながら、一人一人に筆で書くときのポイントを伝えていきました。子どもたちは机を縦長の向きに変え、その後ろに立ち、準備を整えました。「自分なりの最高の文字を書こう」を合言葉に、子どもたちは書き初め用の大きな紙に真剣に黙々と書き始めました。誰も私の書いた手本なんか見ません。でも一生懸命一枚、二枚、三枚と書き進めていくうちに、それぞれ個性的な作品が出来上がってきました。丁寧に仕上げた子、大胆に書いた子、紙からあふれんばかりに大きな文字で書いた子。どれもこれもすてきな作品に仕上がりました。子どもたちの成

長への願いがあふれた文字でした。

廊下に張り出してお互いに批評しあいました。

私も子どもたちへのメッセージを書き初めにしました。

「よく遊び よく学べ」

書き初め その二

書初めを仕上げた三日後、第二回目の書き初めをしました。次の課題は子どもたちが自分の名前の一文字を古代文字で書くこと。ひとりひとりの子どもの名前について古代文字と初義、現在の意味などは冬休み中に字統と字訓で調べておきました。子ども達に書いてもらう古代文字を、テレビで見た白川静さんが古代文字をトレースした場面を思い出しながら墨で書いてみました。書いているとさまざまな発見があり何とも楽しい作業でした。古代中国の人々の精神世界が伝わってきました。

二回目の書初めの時間はじめ、5つの古代文字を板書して「これらは、三年1組の誰かの名前を表した文字です。昔の漢字です。誰の漢字でしょうか」と問いかけあてっこゲームをしました。興味津々、子どもたちは黒板の文字を眺めました。あの子の字だよ、いやあいつの字だと推理していきました。古代文字への関

心が一気に高まりました。

ゲームを楽しんだ後、ひとりひとりに私が墨で書いた古代文字の手本を配りました。今使っている自分の名前の漢字一字と古代文字比べさせました。その後でひとりひとりに文字の形を書く際のポイント、意味、今は失ってしまった訓読みを伝えました。

半紙一枚に古代文字一文字を筆で書かせました。子どもたちは皆伸びやかに大きく古代文字を書いていきました。実に筆がスムーズに動いていきます。難しい、難しいといいながら何枚も何枚も挑戦していきました。集中力を切らさず何とも楽しく書いていきました。

二時間でこの授業を終える予定でしたが、もつと書きたい、次はここを工夫してもっと上手に仕上げたい、という子どもの声に押されて三時間ぶつ通しの授業になりました。



そんな子どもたちの姿から、漢字は墨字であることを再確認しました。

この作品もその一の作品と一緒に掲示しました。

翌日に子どもたちにこの授業の感想を書いてもらいました。

尋の字に挑戦したY・Tさんの感想は多くの子どもた


ちに共通して思いです。

尋 会意 古代文字は右十左、左は左手に呪具の工、右は右手に祝告の器であるをもつ形。神に祈り神の所在を尋ねる時に、左右に呪器・祝告をもって問う。

昔の尋という字はかんたんに書いておもしろかった。

やっぱり昔の「ひろ」という字は、今の尋という字に似ている。

時間ももつといっぱいあつたらもうちよつといっぱい書けたのになあと、と思つた。

何か今の尋という字より、昔のという字のほうが気持ちよく書けた。

わたしには昔の字のほうが今の字より意味がわかる。

鉛筆で昔のという字を書くより、筆で書いたほうが気持ちよく書ける。



点字から識字までの距離(二十二)



山内 薫 (墨田区立緑図書館)

この連載の(十一)で中途失明の利用者が年賀状の宛名を書いてもらいに図書館に来館したという事例を紹介したが、こうしたサービスを図書館では墨字訳サービスと呼んでいる。といっても、このようなサービスを行っている図書館はまだ極わずかしかないのが現状である。一九九四年のユネスコの公共図書館宣言の中に公共図書館の使命として「情報、識字、教育および文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館および文化の核にしなければならない。」とあつて、その中に「あらゆる年齢層の人々のための識字活動とその計画を援助し、かつ、それに参加し、必要があれば、こうした活動を発足させる。」という一文がある。つまり公共図書館は識字に関連した様々な活動をする。そのサービスの中で行っていかなければならないのである。例えばアメリカなどでは様々な民族が混在し、言語上の少数グループ(マイノリティ)に対して特別なサービスと資料が提供されている。ここで言う識字は単に米語を読み書きできるように、ということだけではなく、少数民族の母語による資料を用意すること

も当然含んでいる。こう考えてくると、点字による資料を収集あるいは作成してサービスを行うことも、対面朗読や録音図書など資料を音声化して提供することも、図書館の識字サービスの一環として考えることが出来るのである。

この『羽化』十一号に日野市立図書館の中山玲子さんも書いているように、最近では視覚障害の利用者にパソコンの操作を教えて、Eメールを発信したり、インターネットにアクセスすることが出来るように指導している図書館も出てきた。こうした試みなどまさに最新の識字サービスと言えるだろう。

ところで、先の墨字訳サービスのように、文書の読み書きを支援するサービスのことを「文字情報サービス」と呼ぶこともある。一九七〇年に視覚障害者の関係団体が集まって結成された「視覚障害者読書権保障協議会」（略称「視読協」）が、まず、一九七二年に「図書館協会会員に訴える 視覚障害者の読書環境整備を」というアピールを全国図書館大会の席上で配布し、視覚障害者への公共図書館の開放を求めた後、一九七四年に「視覚障害者のための文字情報センター（仮称）設置要求書」を作成した。この要求書も前者同様図書館に宛てて提出する予定だったようだが、館界の反応があまりに冷ややかだったために、結局は東

京都の教育庁を通じて都知事に提出されたという。この要求に対して東京都は結局、福祉局で対応し、港区三田にある東京都障害者福祉会館で「視覚障害者日常生活情報点訳等サービス事業」が開始された。

文字情報サービスの内容は、当初の視読協の要求では（一）勉学上必要なもの、（二）職業上必要なもの、（三）日常生活上必要なものを、①点訳・墨字訳、②朗読録音、③弱視者のための拡大写本を行うとなっていたが、結局実施されたのは、日常生活情報（カタログ、パンフレット、新聞・雑誌・時刻表の一部、簡単な楽譜、手紙、短い原稿やレポートに絞る）の一部で、企業活動に伴うもの、裁判、内容証明、教科書など、そして点字図書館で取り扱う文書、絵本や文字変換が困難なものは対象とならないとされた。また手紙の宛名書きについても一五枚から二〇枚と数が制限されている。さらに拡大写本については、現在でも実施されていない。

同館では年末年始を除いた毎日、火曜日を除く平日は午後一時半から八時半まで、火曜日と日曜、祝日は午前九時半から午後四時半までこの事業を行っている。利用は予約制で、当然のことながら都内在住・在勤・在学の視覚障害者手帳をもつ視覚障害者が対象で、利用時間は一人一日一時間半というのがこのサー

ビスの概要である。

一九八三年から始まったこの事業の利用は少し古い
が一九八九年で点訳が六一七件、墨字訳が二〇一件、
朗読が六一〇件、そしてフアクシミリ電話朗読が一件
となっている。このフアクシミリによる電話朗読は翌
一九九〇年から本格実施されたもので、その年には二
四件の利用があった。

このサービスで利用される「日常生活文書」の内容
を見てみると、最も多いのが「新聞、雑誌」で、五〇
〇件（点訳一五二、朗読三四八、内容は新聞広告、洋
服、料理など）、次に「カタログ、パンフレット」
で、三八〇件（点訳一七六、朗読二〇四、内容は電気
製品の取扱説明書など）、次いで「原稿、レポート」
が一〇六件（点訳十一件、墨字訳九四件、朗読一件、
主に学生が利用し、文字の間違いの訂正などを含
む）、次いで「郵便物」一〇一件（墨字訳八九件、朗
読一三件）、その他「楽譜の点訳」九三件、主に東京
芸術大学の学生が利用、「外国語の点訳」五四件、
「趣味」四二件（点訳二二件、墨字訳五件、朗読一五
件、長唄の歌詞やCDジャケット、投稿など）、「医
学関係の点訳」三二件などとなっている。また生協の
注文書を定期的に書いてもらいにくる利用者が三〜五
人おり、都営住宅の申込書や出産届、母子手帳、年金

等の申請書を役所の窓口で代筆してくれないからと持
ち込む人もいる。この事業は東京都で唯一この東京都
障害者福祉会館で実施されているもので、全都を対象
にしているわけだから、仮に八王子に住んでいてもこ
こまで出かけて行かなければならないことになる。年
賀状の宛名を二〇枚書いてもらうために往復三時間近くか
けて、交通費を遣って三田まで出かけて行くだろう
か。

そうした点で地域の図書館が
こうした役割を果たすようにな
れば、利用者は、こうした日常
生活上必要な、不可欠な文書の
読み書きを、誰にも面倒を掛け
ずに、しかも個人のプライバシーが漏れることがない
という保障の下で行えるのではないだろうか。もちろ
ん申請書の類や、原稿やレポート類、楽譜などはそれ
ぞれの機関で点訳なり墨字訳を実施しなければならな
いだろうし、電気製品にはすべて点字と音声による取
扱説明書や使用説明書が付くようにならなければなら
ないだろうが、現在の公共図書館がこうした駆け込み
寺的な機能を果たすことも、識字サービスという観点
から言えば必要なことだろうと考える。



【左は、読者のお一人からのご寄稿です。】

漢字教育と日本点字委員会

2001年の初頭、とある集会で日本点字委員会の委員数名から公式、非公式に漢字教育に関する意見を聞く機会を与えられた。以下、その要点を紹介する。

発言者A：日本点字委員会は国の国語審議会のよ
うな公的団体ではなく、私的団体である。日盲社協など諸団体から委託を受け、全国規模で活動している。その目的は、6点仮名点字に関する表記ルールの検討、調整、普及にある。従って、仮名点字に関しては責任ある立場にあるが、漢字を表現する点字、即ち六
点漢字と漢点字の優劣を比較判断し、教育界に勧告したり、決定する立場にない。良いものは自然に残るはずである。

発言者B：6点漢字に関しては、筑波大附属盲で実験的に検証したこともあるが、創案者の長谷川先生自身、教育の場で児童・生徒に教えるものではないとの意見である。漢点字に関しては、読み書きの面で大きな負担がある。漢点字を推進する会の代表者の弁に

もあるように、利用者も少なく減少する傾向にあるのは、何らかの難点があるからではなからうか。仮名点字が110年継続している事実と比較して欲しい。従って、教育の場で点字による漢字教育を採用する考えはない。漢字を必要とした場合には、自主的に勉強すれば、1年もあればマスターできる。

発言者C：盲学校では、すでに漢字の部首、音訓、用法などを教えており、メールなども多少の誤りはあっても、自由にそして盛んに使っている。

ほぼ以上のような内容であったが、果たして盲学校卒業生や在校生の日本語能力はどうであろうか。広く社会にバリアフリーを訴えている一人として、日常的に寒々とした軽蔑の視線を感じるのである。憲法にもあるように国民は平等に教育を受ける権利がある。日本人として正確に意志を通じ合える日本語を学習することは、きわめて大切であり、晴眼者との間で格差があってはならない。統合教育で育った人と、盲学校などの特殊教育で育った人の間に、10年後、20年後に格差を見出したときはすでに遅い。漢字教育の是非を論じている間に、視覚に障害のある青少年が漢字を理解しないまま社会に送り出されるのである。教育を受ける機会を与えないまま社会に送り出すことは、教

育界そのものにバリアがあると云わざるを得ない。障害者教育には様々な困難も想定されるが、何よりも大切なことは、愛情と情熱である。漢字仮名混じり文の日本語を正確に理解し使用できる若者を、学校から送り出そうとするか否かの、意識の問題である。この意識がバリアフリーの方向に改まらない限り、視覚障害者に真の日本語はない。バリアフリーの原点は意識の持ち方にあり、教育の役割はきわめて重要である。

(H. T.)

* 「日本点字委員会」は、点字に関する有識者によって組織されるもので、点字の表記の研究、検討を行っています。その結果を、数年に一度『日本の点字』という冊子にまとめて報告しています。この報告によって、全国の盲学校、視覚障害者のリハビリテーション施設、点字図書館、公共図書館、そして各地域の点訳ボランティアは、点字の表記の統一をはかっています。また、文部省をはじめとする行政機関では、点字の専門家がいないという理由で、同委員会の決定を承認する形をとっています。現在は、朝博先生が会長をお務めます。(編集部)

ご報告とご案内

1. 漢点字学習者を募集：本誌前号でご案内しましたように、本会では、漢点字の学習者を募集しております。

既に数名の方からご応募があり、川上先生のお残しになられたテキストを使用して、学習を始めていただいております。

視覚障害者もコンピュータを使う時代に入りました。バリアの低いコンピュータの世界では、掛け値なしの力が試されます。漢字の知識、言葉のセンスが試されます。多くの視覚障害者に漢点字を習得していただいで、より積極的な社会参加を目指していただきたいと願っております。

漢点字の学習者のご紹介をお待ち申し上げます。

2. 本会会員も漢点字の学習：コンピュータ点訳を活動としております本会も、漢点字を学びたいという会員の声が高まって参りました。そこで、会員を対象とした学習会を行うことになりました。

会員の漢点字への関心も、より近いものになる

ものと思います。

3. 漢点字訳の月刊で発行しております健康記事に盛られなかったものの内、以下の記事の漢点字訳が完成してあります。ご入用の方はお申し出下さい。価格は実費(点字用紙一枚十円)です。

(全て昨年来の、読売新聞掲載『医療ルネサンス』より、一部十五枚前後)


「糖尿病 怖い合併症」 「医事紛争 真実を知りたい」 「角膜移植を考える」 「変わる診療所」 「てんかんを考える」 「膀胱がんと言われたら」 「不況で死なないで」 「パーキンソン病と闘う」 「がんと心 患者・家族を考える」 「胃食道逆流症」 「山村に生きる 介護保険を前に」 「子どもに笑顔を 病院ボランティア」 「難病の子に夢を 平君と支援者の十六か月」 「体のリズム 時間治療の試み」 「若者とエイズ」 「手術後の突然死 増える肺塞栓症」 「介護日記 アルツハイマー病の妻」 「心臓をいたわる」 「進化する放射線治療」 「ぶり返す結核」

4. 漢点字、月刊の発行物

朝日歌壇、六カ月三、〇〇〇円、テープ版、同六〇〇円。

朝日俳壇、六カ月二、四〇〇円、テープ版、同六〇〇円。

新聞の健康記事、六カ月一、五〇〇円。

5. 新聞の健康記事の内、朝日新聞に掲載されました「内視鏡」が、昨年で終わりました。そこでこの一月から、朝日新聞の「 36.5」と「ともに歩む」を漢点字訳して、月刊発行物とすることに致しました。

6. 「横浜通信 羽化」漢点字版のみ。購読料は無料。

漢点字の読みの熟達をサポートする目的で、漢字、故事成語など言葉に関わる記事、お医者様のご執筆になる『いのち』からの健康情報などで編集しています。ご一読下さい。

7. 漢点字変換システムEIBRK ver3.20' 五、〇〇〇円。漢字熟語読み方電子辞典EIBRDIC' 六、〇〇〇円でお分けしております。何れもMS-DOS版です。

ウィンドウズ版の開発も急ピッチに進んでおります。

漢点字による漢文訓読文表記の試み

横浜漢点字羽化の会 岡田 健嗣

一 序

本会は、点字の漢字である漢点字の普及と資料の製作を主眼として活動をして参りました。言い換えれば、触読文字である点字で漢字を表現して、日本語の表記を点字の世界にも実現することで、視覚障害者に、文章の扉を開こうという目的を掲げて活動して参りました。

「日本語の表記」と一言で申しましても、現在用いられている「漢字仮名交じり文」は、決して古いものでもありません。と同時に、大変歴史のあるものでもあります。

古いものではないと申しますのは、現在用いられている口語文は、遡ってもせいぜい明治の半ば、つまり百年程度という意味です。明治維新の後、西欧文化がどっと流入して、それまでの日本語の表記法では表現し切れないものを、当時の人々は感じました。そして日本語という言葉との苦闘が繰り広げられました。その主な舞台が、明治二十年代から目覚ましく発達したジャナーナリズムで、その対象である大衆の文化は、激

しく拡大して行きました。口語文はそのような中広く流布されるようになり、取捨され、洗練されて、現在に至ったものです。二葉亭の「言文一致」や、鴎外の文体の変遷が、現代人にとっても文章のお手本であるのも、このような理由からです。

また一方歴史的には、日本語は、独自の文字を持つことがなく、その表記に中国から導入した文字、漢字を用いたのでした。つまり我が国では、国語を表記するのに、外国の文字を用いなければならなかったのです。当時の日本の人が試みたのは、まず先進国である中国の文献を読むことでした。中国の文献を読むためには、中国語に通暁する必要がありました。文字を持たなかつた古代の日本人は、大変な努力をして、当時の中国語とその文字を習得して、中国の表記を我がものとするとともに、やがて中国の文字である漢字で、日本語を表記することに成功したのでした。

それに先だつて、中国の文献を読み解く方法として、日本語の文法に添った読み方を編み出しました。これが〈漢文訓読法〉です。この方法は、漢文の中国語の語の並びを、日本語のそれに並べ替えるために指示符号を付けて、さらに中国語にはない〈送り仮名〉を付けることで、日本語として読むことのできる文にしたものです。

このような努力によつて、日本人が漢文を日本人の文
体のように扱うことができるようになり、その知識と
実力が、後年、西周の起草と言われる「社会、法律、
哲学」という漢字の熟語による翻訳語を産み出した
り、「自〇月〇〇日、至〇月〇〇日、於□□」という
漢文に由来する表現にその形を残したりしています。
中等、高等の英語教育の和訳のルーティーンを見て
も、この〈漢文訓読法〉の応用であることが分かりま
す。このことは、私たち日本人は、現在も、外国語に
対して、千五百年前の人々と全く同様の態度を採つて
いることを示しているように思われます。

漢点字の考案者である故川上泰一先生は、この漢文
訓読の表記について幾らかの示唆をお残しになられま
した。しかし残念ながら不十分なままに留まつており
ます。

本会では、漢点字で日本語文の全てを表現したいと
考えて参りましたので、この日本語文の原点である
〈漢文訓読〉の表記についても試みたいと祈念して参
りました。またこのことは、中等、高等教育にも必要
欠くべからざるものでもあります。ここに、その表記
の試みを掲げて、読者の皆さまのご批判を仰ぎたいと
存じます。未熟と浅学による誤解や、屋上屋を重ねる
等の仕儀には、よろしくお叱りを賜り、正しき方向に

お導きいただきたくお願い申し上げます。

二 漢文訓読の一般的な表記

ここでは、一般の漢文訓読の表記について、もつとも
単純な文をモデルにしてご説明します。

「我 読 書」という文があるとします。この文は、
漢字が並んでいるだけの文で、〈白文〉と呼ばれます。

この文を日本語で読む場合「われはどくしよす」と読み
下してもよいのですが、漢文訓読では「われはしよをよ
む」と読みます。「読」と「書」の順序を逆にして読む
のです。また、「我」に「ハ」、「読」に「ム」、
「書」に「ヲ」を加えて読みます。表記もこれに準じま
す。このように漢文訓読では、本来の文字（漢字）に、
読みの順序を知らせる符号と、日本語として読むための
カタカナが付け加えられます。前者を〈返り点〉、後者
を〈送り仮名〉と呼びます。表記は左のように、〈返り
点〉は左側に、〈送り仮名〉は右側に付されます。
以下、三つの例を掲げます。カッコの中は読み下しで
す。

例一 我、読、書。

（我は書を読む。）

例二 我^ハ 読^ム 古^ノ 人^ノ 書^ヲ。
(我は古人の書を読む。)

例三 我^ハ 欲^ス 読^ム 古^ノ 人^ノ 書^ヲ。
(我は古人の書を読まんと欲す。)

(イ) 送り仮名

右の三つの例には、右側にカタカナが添えられています。これを「送り仮名」と呼びます。中国語の文を日本語に翻訳して読むために、日本語の一部を加えたものです。「送り仮名」には「ム、ス、マン」のように、現代口語文のそれと同じものと、「ハ、ヲ、ノ、ト」のように、助詞、助動詞などが加わります。

(ロ) 返り点

例文の左側に付されているのが「返り点」です。これは、中国語の語の並びと、日本語の並びとが異なっているために、日本語の順序に読ませようと指示する符号です。その用いられ方は以下のとおりです。

① レ点あるいは雁（かりがね）点

（レ点（雁点））は、上下に続いた文字一文字を逆

に読むための符号です。カタカナの「レ」に似た形をしているのでこのように呼ばれます。これは文字と文字の間の左側に付して表されます。例一では「読」と「書」の間にあって、「書ヲ読ム」と下から上へ逆に読むように指示しています。

② 一二点

（レ点）では上下に隣り合った文字を対象としましたが、離れたところにある文字を返って読む必要も出てきます。その場合は、一、二の符号を、対象となる文字の左側に付すことで表します。例二は「我ハ」の次の「読ム」に二の符号が付いていますので、これを飛ばして「古人ノ」に読み進みます。そのまま「書ヲ」に至って一の符号が付いているのが分かりますので、「書ヲ」の次に二の符号に戻って「読ム」と読むのです。ここでは一、二の二つだけ使いましたが、もう少し長い文では、三を使うこともしばしばあります。

③ レ点と一二点の重複

例三は（レ点）と（一二点）を一緒に使った文です。「我ハ」の後の「欲ス」の後ろ「読マント」との間にレ点が付されています。そこで「欲ス」を飛ばして「読マント」を読むことになりましたが、ここにも二の符号があります。この「読マント」も飛ばします。

次の「古人ノ書ヲ」まで読み進んで一を見出します。ここから「読マント」に返って読みます。次いで「欲ス」に返って終わります。

④その他の返り点

漢籍と呼ばれる中国の古い文書では、右に挙げた二点だけでは賄えない複雑なものが多くあります。そこでこの他にも〈返り点〉が用意されています。

「上、中、下」「甲、乙、丙、丁」「天、地、人」

これらの〈返り点〉を読み下す場合、高位の符号から低位の符号へ順に読み進めばよいのです。

三 漢点字による漢文訓読の表記

以上、漢文訓読の一般的な表記法を見て参りましたが、これを漢点字の文書に反映させて、触読文字で漢文訓読文を読解できるように、表記の形式を案出しなければなりません。この際に問題となる点を書き出してみます。

・漢文は縦書きであるが、点字の文は、縦書きにはできない。

・漢文訓読文では本文は文の流れに添って漢字が並び、日本語として読み下すための送り仮名と返り

点は、対象となる文字の左右に位置付けられる。すなわち文は縦に流れ、読みを指示する符号やカタカナ文字は、文と交差するように左右に配置される。このように交差する表記を漢点字文に実現することは、大変困難である。

・送り仮名や返り点は、本文に比べて小さな文字で表されるが、点字では、文字の大きさや書体を変えることはできない。

・返り点は文字の形をとどめていて、一般には文字と理解されている向きが多いが、これは指示符号であることの理解を求めなければならぬ。漢点字文では文字の形態にとらわれず、符号化して処理する必要があるからである。

以上のように、墨字の漢文を触読文字に定着するには、多くの困難が存在します。その試みを、具体例でご説明します。

(イ) 漢文を横書きにする

点字の文書は、残念ながら縦書きにはできません。

また、文字の大きさや形を変えることもできません。

表の(一)は、漢字一文字を単位として、横に並べてみたものです。漢文は、本文が漢字で表記されていて、その一つ一つに返り点や送り仮名が付いたり付か

なかつたりして訓読されます。そこで、「返り点・漢字・送り仮名」の一固まりを一つの単位と考えました。その漢字一文字を中心とした単位を、そのまま横に並べてみました。漢字一文字を単位として、左に返り点、右に送り仮名を配置しますと、文を左から右へ読み進むにしたがつて、返り点が、その対象とする漢字に先立って、触読している指にふれることになりません。このことは、墨字の漢文訓読文を読む場合、先ず返り点の位置を確認して読み進むという運動と同様に考えてよいように思われます。また、この並びによつて、触読する指の動きの障害を最小限に抑えて、文の流れを中断することなく読み進めることができるのです。

(ロ) 点字の返り点

返り点には、「一、二、三」「上、中、下」……のように、漢字が用いられています。しかしその機能は極めて記号的で、読みの順序を指示する働きがあるだけです。そこで漢点字で表記される漢文訓読文では、積極的に符号化してみました。

表の(2)をご覧下さい。漢文訓読文の中には、決して算用数字は現れません。そこで、点字の算用数字を表す(数符 ⠠)を(返り点符)として用いることにしました。これも数字を示す(数符)と同様に、前置

符号として用います。レ点から天地人まで一通り作ってみました。この返り点を辿ることで、漢文訓読の読みの順序を知ることができます。

表の(3)は、(1)の返り点にこの点字の返り点符を導入したものです。このように、読み進む文の中に(⠠)の符号があれば、それが返り点で、一文字戻つて読んだり、一文字飛ばしたり、前の返り点に返つて読んだりすることができます。

四 結び

以上、漢点字で(漢文訓読文)を表記する方法について述べて参りました。残念ながら今回は、熟語と再読文字に触れることができませんでした。

これまで接して参りました漢文は、この方法で表記できるものと確信しておりますが、まだまだ未知、未経験は如何ともし難く、今後も多く漢文に挑む必要を痛感しております。

また、本会が制作する漢点字書の漢文の表記は、この方法を採用します。ご意見、ご批判をお寄せいただき、皆さまのお知恵を拝借できれば幸甚に存じます。

漢文の初歩からお世話になりました田中かほるさまには、心より御礼申し上げますとともに、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

美味しいお料理をいただきながら、自己紹介やくじ引きなどの趣向も交えて楽しい一時となりました。今年の利用者のお一人がお子さまをお連れになって、より空気のなごんだ会となったように思われます。



本会も現在の活動を始めて五年を過ぎました。昨年は二度の講習会を経て、新しい会員の皆さまにもご参加いただくことができました。新しい会員の皆さまには二年目となる今年ですが、活動の全体像も見えてこられたことと思います。

二十一世紀の幕開けのこの年、漢点字への理解と使用者の拡大を祈念して、無事閉会することができました。





ご出席の皆さまには、深く御礼申し上げます。また、ご参加のみなさまは、深く御礼申し上げます。活動の場で、また来年の会で、楽しい時間を共有できるように願って止みません。



イラスト版

漢点字ってどんな字？ 23

第一基本文字と 対象基本文字の 復習と応用

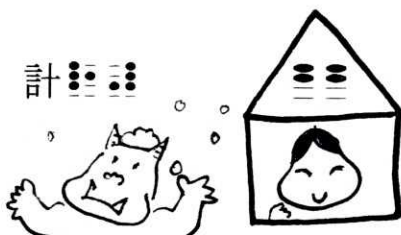
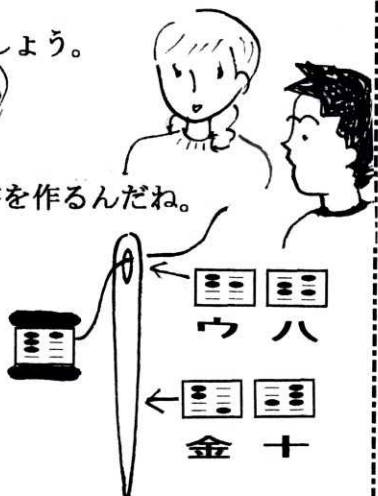
今回はこれまでの基本文字をまとめましょう。

部首になる字ね。

この文字が一緒になって新しい文字を作るんだね。

第一基本文字

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 糸 | 細 | | | | |
| 家 | 字 | 宗 | 宝 | 守 | 穴 |
| 宿 | 宋 | 縮 | | | |
| 言 | 討 | 話 | 計 | | |
| 語 | 詩 | 訳 | | | |
| 金 | 針 | 銀 | | | |
| 木 | 林 | 森 | 校 | 相 | 想 |
| 草 | 芳 | 荷 | | | |



子

都

市

発発頭

馬

田

竹

土

手

人

仁人偏

水三水

力

示

私ノ木偏

進之繞

女

玉

方

好

阿郎

肺

登

篤駅

細胃 思 佃

篤等

寺埼 社

持挑

休仲 何 付 保

佳

河消 海 浪

加男

社宗

秋

辻

安姉

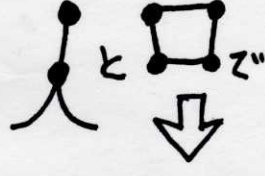
嫁要

宝

芳



発はつと豆まめ
で



耳

聞

車

轟

目

見

眼

門

聞

間

関

店

府

月

有

明

肉

肺

背

分

八頭・人頭

傘

日

時

明

早

性

立心偏

悔

怖

慣

憶

心

こころ

思

忠

口

加

古

困

国構え

固

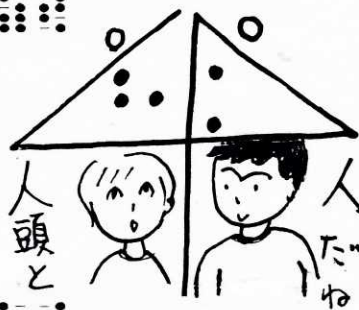
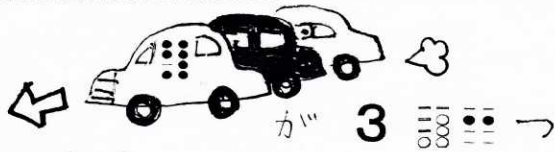
国

十

有

朝

宏



朝

有

朝
あさや
十の字が
こころにも



比較文字

良

郎 朗

可

河 阿

何 荷 奇 埼



大 奇 埼

中 仲 冲 忠

小 肖 消 梢

出 咄

入 込

寸 守 村 付 附 寺

詩 時 持 待 等

尺 沢 沢 沢

父 交 校 絞

母 毎 海 悔

東 練 棟

西 要 晒 栖

南 献

北 背



交 毎



漢数字



伍 穴 穴 旭

佰 仟 舌 話

憶 臆 挑



寒風に吹きしぼらるる思ひかな

寒風に吹きしぼらるる思ひかな

星野 立子

星野 立子

うつし身の寒極まりし笑ひ声

うつし身の寒極まりし笑ひ声

岡本 眸

岡本 眸

梅二月ひかりは風とともにあり

梅二月ひかりは風とともにあり

西島 麦南

西島 麦南

(「歳時記」より)

編集後記 二十一世紀、最初の「羽化」です。

本年もよろしくお願い致します。

二月四日(日曜日)に第一回目の「会員の点字講習会」が開かれました。多数の方が出席され、問題集に取り組み、楽しい雰囲気の中で、皆さんのやる気が伝わります。今回、ご都合で出席できなかった方も次回のご参加をお待ちしております。

当会は、コンピューターを駆使して漢点字訳を行い、最近では、インターネットの普及で会員同士の連絡に利用頻度が多くなっております。

昨年末の話にはなりますが、マスコミ・販売店等で警告されています「ウイルス」の被害が会員の中で発生、早い発見と迅速な対応で一部の方の被害で終わりました。

被害に遭われた方は、ファイルが破壊され、復旧で大変なご苦労をなさいました。

今回の事は、今後の課題の一つとなると思われる。編集中におきなくて本当によかったと「ホッ」としている次第です。

次回の発行は四月十五日です。 宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。

連載 漢点字変換ソフトEIBRKについて(8)

木下 和久

前号に引き続きWindows版のEIBRK(プログラム名はEibrkw.exe)について説明します。

2. Eibrkw.exeの立ち上げ

プログラムの立ち上げは、デスクトップにあるEibrkwのショートカットアイコンか、マイコンピュータあるいはエクスプローラなどのファイル表示画面で、Eibrkw.exeファイルをダブルクリックします。ファイル選択のウィンドウが開くので(古いバージョンでは自動的にファイル選択のウィンドウが開かないので、その場合はメニューのファイルをクリックする)、ファイルのリストの中から目的とするファイル(テキストファイル……ここにはテキストファイルのみが表示される)をダブルクリックします。

上記の他に、最初に目的とするテキストファイルをエクスプローラなどで選んで、このファイルをデスクトップのEibrkwショートカットアイコンまでドラグ・アンド・ドロップすると、ファイル選択画面を省略して直接目的のファイルを操作することができます(テキストファイル先指定)。

プログラムを立ち上げた直後の画面は、上段の変換画面と、下段のテキスト画面が表示されます。これらの画面は、一般のWindowsソフトと同じように自由に場所を変えたり、大きさを変えたりすることが出来ます。このように画面のレイアウトを変更すると、次回から同じレイアウトで表示されるようになります。

まだ漢点字変換の操作がなされていないテキストファイルの場合は、テキスト画面にそのファイルが表示され、変換画面は空白です。変換画面の最下段には赤字で「未変換」と表示されます。この状態で、テキスト画面は直接ファイルが編集できるエディタとなっていますので、

自由に追加入力、削除、挿入ができます。ここで、変換画面の最下段の「未変換」の文字をクリックするか、CTR-Hキーを押すと、テキストファイルが漢点字に変換されて変換画面に表示され、赤色の「未変換」は青色の「変換済」に変化します。

3. 変換画面での操作

(1) 変換画面とテキスト画面

変換画面とテキスト画面のどちらを操作するかを選択は、操作したい方の画面のどこでも1度マウスポインターを合わせて軽くクリックするだけです。こうして操作画面が移動すると、その度に直前までに画面に加えられた変更は、次の画面にその結果が反映されます。つまり、テキストファイルに加えられた変更はディスクに保存され、それが再変換されて変換画面に表示されるのです。逆に変換画面で変更された結果は、テキストファイルに反映され（テキストセーブという）それがテキスト画面に表示されます。このように、各々の画面での変更結果は、画面を切り替える毎に反対の画面に反映されますが、同一画面内でその変更結果をディスクのファイルに保存したい場合は、変換画面の最上段にあるメニューの「保存」をクリックします(詳細については後述)。

(2) ファイル読み込みと新規入力

既存のテキストファイルを読み込んで漢点字変換する場合は、上に述べたような方法で行いますが、新規にファイルを作ってそのまま入力することもできます。

全く新しいファイルを入力するには、メニューの「新規入力」をクリックします。最初にファイルの名前を聞いてきますので、適切な名前を付けます。これは必ず拡張子を.txtとして下さい。ファイル名を決める前にいきなりテキスト画面で入力を開始すると、ファイルの保存が出来ないのでご注意下さい。その後は自由に変換その他の作業が続けられま

す。

(3)保存

メニューにある「保存」の方法は次の5種類です。

a) 点字テキスト保存 (F3)

変換画面での変更結果をテキストファイルに保存します(テキストセーブ)。これはファンクションキーの3を押せば、直ちに実行されます。これを実行すると、テキスト画面の内容も更新・表示されます。

b) (同上) 名前変更保存

上記と同じ内容ですが、保存するテキストファイルの名前を希望するものに変更します。こうすることによって、大きな変更を加えたときにもとのファイルをそのままにしておくことができ、安全を保つことができます。

c) テキストファイル上書き保存 (Ctrl+S)

テキスト画面での変更結果をディスクのファイルに保存します。コントロールキーとSキーを同時に押せば、直ちに実行されます。この場合は、漢点字の再変換は自動的には行われません。再変換が必要なら「変換済」をクリックして下さい。

d) (同上) 名前変更保存

b)と同じようなものですが、テキスト画面での変更内容を保存するテキストファイルの名前を希望するものに変更します。こうすることによって、大きな変更を加えたときにもとのファイルをそのままにしておくことができ、安全を保つことができます。

e) バックアップ (Ctrl+U)

操作中の変換された全ファイル式(.TXT、.TXH、.TXZ、.TXPの拡張子がついたファイル)を、「バックアップパス」に保存します。この「バックアップパス」は、後で説明する「オプション」で設定するもので、例えばこれをフロッピードライブにしておくと、簡単に編集した結果のファイル式をフロッピーディスクに保存して、コンピュータから取り出すことができます。

(4) 印刷

メニューの「印刷」には以下の3種類の項目を選択することができますが、点字印刷以外はシステムで利用可能なテキストファイルの簡便な印刷方法なので、印刷時のレイアウトを好みのものにしたり、フォントを適切なものにしったりしたいような場合は、ファイルを直接一太郎やワードのようなワープロソフトで読み込んで加工した方がよい印刷結果が得られます。

a) 点字印刷

漢点字変換されたファイルをもとに、点字プリンターで点字印刷するものです。この項目をクリックすると、印刷条件のリストが表示されるので、これらをチェックし、また必要に応じて変更することもできます。印刷部数指定などは、プリンターの特性によってやり方が異なります。例えば、エベレストやベーシックDはメモリーが大きく、通常100ページ程度の1冊分のデータは1度に記憶させられます。そして、全部のデータが記憶されないと印刷が始まりません。このような場合、複数部数の印刷は、ここでの指定は1部として、1冊分印刷してから、プリンターの方で後の印刷部数を指定するようにします。

全文書を印刷範囲として指定するときは、印刷開始ページを1に、印刷終了ページをEにします。その他の設定項目については、後で説明するオプションでの設定項目に準じます。

(以下次号)